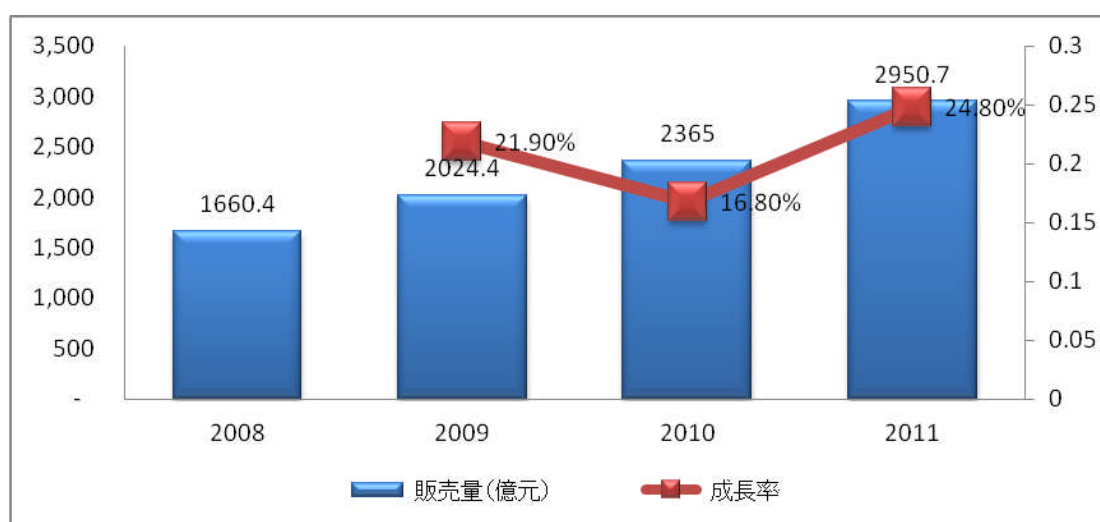


2012年4月20日

2011年中国産業用ソフトウェア市場は急成長、24.8%増

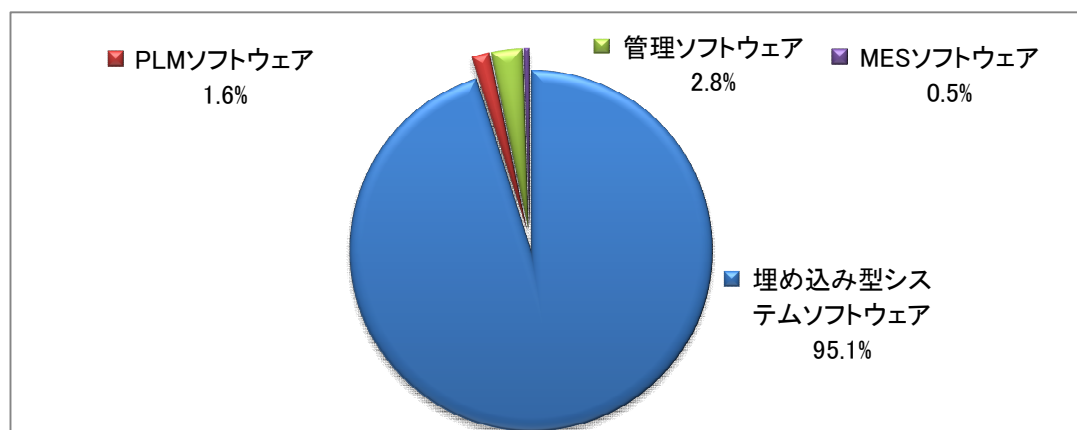
CCIDの中国産業用ソフトウェア市場に関する調査によると、2011年の中国産業用ソフトウェア市場は前年比24.8%増の2,950億7,300万元に達した。政府の「両化（工業化・情報化）融合」政策の下、工業企業が情報化をより重視、産業用ソフトウェア市場は大幅な成長を遂げた。

図 2008-2011年中国産業用ソフトウェア市場規模及び成長率



データ出典: CCID (賽迪顧問) 2012, 02

図 2011年中国産業用ソフトウェアの製品構成



データ出典: CCID (賽迪顧問) 2012, 02

1. 2011年産業用ソフトウェア市場の特徴

工業分野に根付いたソフトウェア産業は、中国工業化の各段階の柱となっている。鉄鋼、自動車、石油・化学、電気製造など応用産業分野はもちろん、工業自動化や工業製品の研究・開発、設計、製造、流通など過程の管理においても、欠かせない存在となっている。

(1) 産業用ソフトウェアベンダーの3パターン

現在、中国の産業用ソフトウェアベンダーは主に3種類に分けられる。まずは、宝鋼の宝信軟件、第一汽車の啓明信息、中国石化の石化盈科などの製造業者が設立したソフトウェアベンダーである。このようなベンダーは特定の産業について、長年蓄積してきたサービス経験や先進的なIT技術を持っている。だが、親会社への依存から、市場化の進展は遅れており、親会社と市場との間でいかにバランスを取り、親会社のライバル企業が抱える不安を解消するかがカギとなる。マーケティング不足と親会社によるマイナス影響が、これらの企業にとって解決しなければならない課題だといえる。

次に、金蝶や用友など汎用ソフトウェアを開発するベンダーである。これらの企業は巨大な潜在的市場を持っているが、特定産業における強みを持っていない。ある産業に特化し、カスタマイズのニーズに応えることが発展へのカギである。

第三に、東軟、浙大網新、浙大中控といった大学や研究所から生まれた企業である。これらの企業は基礎研究分野を強みとして、知的財産権を取得した商品が相対的に多い。研究成果をいかに商品化し、産業のニーズに応えるかが課題となる。

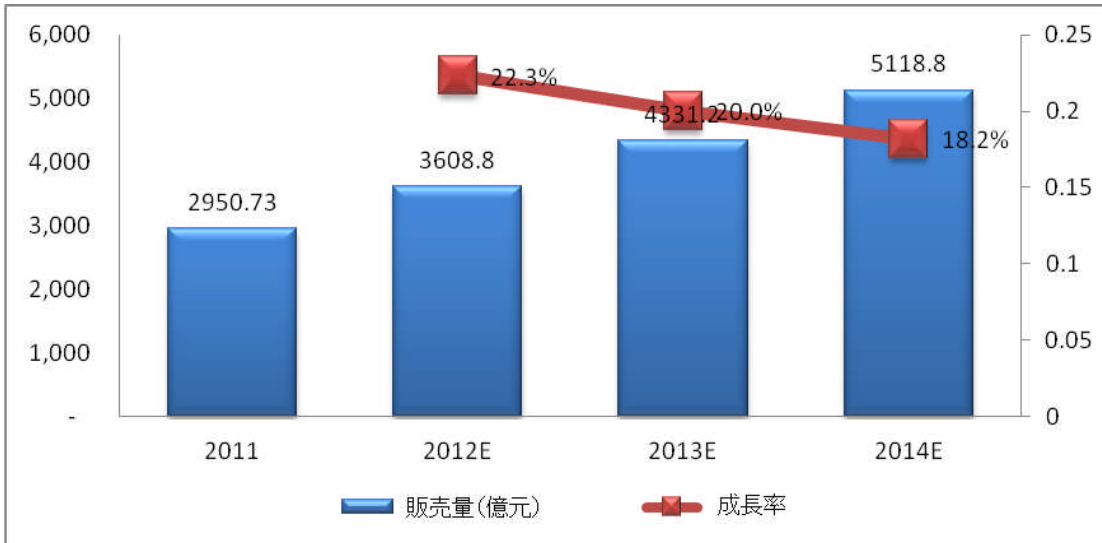
(2) イノベーション応用が開発されつつあるが、ハイエンド分野には出遅れ感

現在、産業用ソフトウェアベンダーは業務内容を拡大し続けている。大規模なベンダーは産業用ソフトウェアの複数の分野をカバーし、イノベーション応用に力を入れている。その一方、航空・宇宙、自動車、飛行機、高速鉄道をなど一部の戦略的産業では、部品の90%を海外の大型ソフトウェアに依存している。また、大手企業の多くは海外のマネジメントソフトウェアを使用。ハイエンド産業用ソフトウェア分野では、中国は世界水準から大きく後れを取り、オリジナルの技術と多国籍企業の不足が競争力の弱さにつながっている。

2. 産業用ソフトウェアの発展趨勢

■ 電子的または機械的な手段を問わず、本資料の一部または全部を無断で複製・転送等を行わないようお願い致します。また、当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に際してはお客様ご自身の判断にてお願い致します。

図 2011-2014年中国産業用ソフトウェア市場規模の予測



データ出典: CCID(賽迪顧問) 2012, 02

(1) 産業用ソフトウェアベンダーと従来型工業企業はインタラクティブな関係を形成

マネジメントシステムERPとローカルコントロールシステムは、以前から中国製造業における技術現代化と情報化応用の中心になってきたが、設備管理、物流、財務など一部の情報システムは独立し統合されておらず、情報が遮断されている。時期、ベンダー、ブランド、種類、階層などの違いによって、複数のコントロールシステムを併用することでコントロールの効果は高まっているが、コントロールが独立する形になってしまい、企業は生産・管理の情報化の支えとなるような、統合したシステムプラットフォームが必要となる。そのため、より高い基準を満たした製品が必要となる。したがって、ベンダーと一般工業企業のインタラクティブな関係がカギとなる。もちろん、政府の役割も欠かせない。政府は企業情報化を促し、重要なソフトウェア製品と技術の普及に向け、国家レベルの評価基準を定め、モデル企業を育成する必要がある。

(2) 標準と応用との同時発展を重視

いち早く産業用ソフトウェア分野に進出した欧米の先進国は、市場成熟度、市場シェアが高いだけでなく、業界標準を左右する。一方、中国産業用ソフトウェアベンダーは急成長し、応用課題の解決に成功、多くの企業での応用が実現された。しかし、標準による制限が国産産業用ソフトウェアの発展を妨げている。大量のデータの相互交換ができないかぎり、中国工業企業は、データ管理コストと応用ソフトウェア変更コストがかさむというリスクを抱えることになり、更なる発展の足かせとなる。中国企業が成長するにつれて、産業用ソフトウェア業界は標準と応用との同時発

展をさらに重視、より積極的に標準策定に参画していくものと見られる。

(3) 協同化、ソーシャル化が顕著に

協同化とソーシャル化で製品の開発方法に革新的な変化がもたらされ、より多くの国際提携が可能になっている。情報化と工業化の融合は、その足場となる情報技術を通じて企業の業務内容を緊密に結合。情報技術を業務プロセス、企業の発展過程、工業化の各段階に浸透させる。デジタル化統合や、業務モデル転換と業務プロセス改革の一環であり、企業の質とコアコンピタンスの向上も視野に入れる。情報化が大々的に進められるなか、企業のニーズに応じ、情報技術、先進的製造技術及び近代的管理技術を組み合わせ、製品研究生産サイクルの各段階に総合的に応用、デジタルプラットフォームを構築し、中国製造業のデジタル化水準向上に向けて、デジタル化、統合化、ネットワーク化につながる研究・開発、生産、管理の新型工業システムを構築するべきである。

■ 賽迪顧問股份有限公司 (CCID) のご紹介

CCIDは、中国「工業情報化省」傘下で中国最大のコンサルティング会社です。2004年には、中国のコンサルティング会社として初めて香港証券取引所への上場を果たしました。各国の企業に対し、市場調査やマーケティング戦略・販売チャネルの構築支援など多岐にわたるサービスを提供しています。現在は北京本社のほか、上海や広州、深センに支社、日本や米国、韓国、イタリアに事務所を置いてあり、世界的に高い知名度を誇っています。

■ 中国市場調査サービス



中国市場調査レポート

中国市場の今を知る
最新マーケティングレポート

2011-2012 年版中国市場調査レポートを
4 月 1 日より販売開始。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/report.html



中国市場データ配信

企業別・地域別最新データの
定期配信サービス

ご希望分野のデータを定期的にお届けする
サービスです。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/data.html



中国市場受託調査

政府系コンサル企業による
ニーズ・目的に応じた調査

調査地域・分野を問わず、お客様固有の
ニーズに合わせて実施するカスタムリサー
チサービスです。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/custom.html

■ 電子的または機械的な手段を問わず、本資料の一部または全部を無断で複製・転送等を行わないようお願い致します。また、当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に際してはお客様ご自身の判断にてお願い致します。